［7］　関連病院から

金沢西病院脳神経センター　神経内科

2001年4月から，開設3年目に入ります。高守名誉教授と丸田の2人体制で開設した時は，診察室は1室で，採血や点滴も同じ部屋でまかなえる程の患者数で，たまに新患が来ても精神科と間違えて来る人が多いという状況でした。このため，まず，病院内で"神経内科とは"という講義を行い，高守先生みずから公民館へ出向き，ミニ講演をして廻りました。次に，壁新聞とプリントで「脳神経センター便り」を作りました。ところが，これが好評で，講演は引っ張りだこになり，「脳神経センター便り」は数百部づつ定期発刊することになりました。これとともに，患者の足が向き始め，今では月に新患者が50人～100人，他に再来患者が500人～600人受診するようになり，まだまだ増え続けています。外来は2診体制で点滴用ベッドも2台必要になり，常時約20人が入院しています。学会や出張で1診しか開けない日は，"猫の手も"状態です。この2年間に，医療設備も充実しました。画像検査では，従来からのCT，MRIに加え，XeCTとDigital USを導入しました。XeCTにより高解像度の脳血流画像が得られ，Digital USでは，大学・古井先生の御指導により，血管エコー検査が出来るようになりました。生理検査では，従来からの筋電図・誘発電位計に加え，Digital脳波計と重心動揺解析装置を導入しました。最近ではtwich tension測定も始め，神経筋疾患の病態把握，治療効果判定に役立てています。また，機器を使わない痴呆の神経心理検査にも十分な時間を割いています。

このように当センターが順調に定着してきた要因には，当院の立地環境があります。当院は金石・大野を背景としています。金石港は能登で生産した塩を加賀藩に納めるために水揚げした港で，この豊富な塩を使った醤油醸造で栄えたのが大野です。このため，これらの地域では塩分摂取過多から，高血圧，ひいては脳血管障害の多発が懸念されます。また，金沢市の経済圏が西へ向かって発展するにつれ，付近に企業の事務所，商店，工場が多くなり，それらの管理職から一般職に亘る色々の職種の方々が，仕事の合間をみて，来院されるのも最近の傾向の一つといえ，高守先生が労務管理士の会合での医学諸話を求められることもあります。その上，関連医師との関係も大きな要因でした。脳血管障害に絞って言及しても，院長が脳外科医，副院長が循環器科医であるのみならず，脂質代謝の専門医師や血栓凝固の専門医師が常勤している上，大学からも関連諸科のスタッフが非常勤で勤務し，垣根を超えたHot なDiscussionが実現できる恵まれた環境にありました。勿論，山田教授，駒井助教授をはじめ大学神経内科医局および関連諸病院の先生方や近隣の医師会の皆様からの御支援があってのことと感謝致しております。

当センターの今後には，まだまだ超えなくてはならない壁があります。リハビリや検査設備の充実，医療スタッフ整備，脳ドック開始，脳梗塞発病予防のための住民意識改革……理想を言えばきりがありません。ただ，眼前の目標として，地域医療センターとして患者が満足する医療を提供すること，この医療をもとに学会発表等で医学に貢献することを実現することで，これまで当センターに御支援頂いた皆様への恩返しができればと，願っております。今後とも宜しく御願い申し上げます。

（丸田高広　記）

［8］名　　簿（2000年12月現在）

【金沢大学医学部附属病院神経内科】

教　　授	山田正仁	（やまだ　まさひと）
助教授	駒井清暢	（こまい　きよのぶ）
（保健管理センター）	吉川弘明	（よしかわ　ひろあき）
助　　手（医局長）	沖野惣一	（おきの　そういち）
助　　手（病棟医長）	古井英介	（ふるい　えいすけ）
助　　手（外来医長）	石田千穂	（いしだ　ちほ）
大学院生	柿島章宏	（かきしま　あきひろ）
	柳瀬大亮	（やなせ　だいすけ）
	小野賢二郎	（おの　けんじろう）
医員研修医	佐村木美晴	（さむらき　みはる）
	野口もえ子	（のぐち　もえこ）
他科ローテイター	伊藤孝之	（いとう　たかゆき）
	杉盛かおる	（すぎもり　かおる）
	鈴木　　薫	（すずき　かおる）
	尾山　　治	（おやま　おさむ）
医局事務員	大杉文子	（おおすぎ　ふみこ）
	高橋喜久子	（たかはし　きくこ）
	米沢真理子	（よねざわ　まりこ）
研究補助員	橋本真弓	（はしもと　まゆみ）
臨床助教授	新田永俊	（にった　えいしゅん）
非常勤講師	高守正治	（たかもり　まさはる）
	坂下泰雄	（さかした　やすお）
診療協力医	狩野　　操	（かのう　みさお）
	丸田高広	（まるた　たかひろ）
	馬渕一徳	（まぶち　かずのり）

看護職員（２病棟２階）

看護婦長	坂尾雅子	（さかお　まさこ）
副看護婦長	山上和美	（やまがみ　かずみ）
看　護　婦	谷田明美	（たにだ　あけみ）
	藤島則子	（ふじしま　のりこ）
	山本真里子	（やまもと　まりこ）
	長谷伊万里	（はせ　いまり）
	染澤直美	（そめざわ　なおみ）

	村中陽子	(むらなか　ようこ)
	秋田和賀子	(あきた　わかこ)
病棟薬剤師	白土啓子	(しらと　けいこ)

(外来(内科と合同))

副看護婦長	安達純子	(あだち　じゅんこ)
副看護婦長	片山政子	(かたやま　まさこ)
看護婦	浜下幸子	(はました　さちこ)
	中村恵美子	(なかむら　えみこ)
	柴田明子	(しばた　あきこ)
	松本夏代	(まつもと　なつよ)
	加藤稚子	(かとう　わかこ)
	太田智恵子	(おおた　ちえこ)
	辻田外枝	(つじた　そとえ)

【関連病院】

国立金沢病院　医長	新田永俊	(にった　えいしゅん)
	馬渕一徳	(まぶち　かずのり)
国立山中病院	古川裕	(ふるかわ　ゆたか)
国立療養所金沢若松病院	山口和由	(やまぐち　かずよし)
国立療養所医王病院	土井建朗	(どい　たけお)
	狩野操	(かのう　みさお)
	松本泰子	(まつもと　やすこ)
国立療養所七尾病院	品川真里子	(しながわ　まりこ)
	浅賀知也	(あさか　ともや)
石川県立中央病院	内山伸治	(うちやま　しんじ)
	山川祐賀子	(やまかわ　ゆかこ)
公立能登総合病院	横地英博	(よこじ　ひでひろ)
	浜口毅	(はまぐち　つよし)
小松市民病院	佐竹良三	(さたけ　りょうぞう)
金沢西病院	高守正治	(たかもり　まさはる)
	丸田高広	(まるた　たかひろ)
恵寿総合病院	坂尻顕一	(さかじり　けんいち)
加賀八幡温泉病院	瀧澤泰樹	(たきざわ　やすき)
国立療養所犀潟病院	福原信義	(ふくはら　のぶよし)
	白崎弘恵	(しらさき　ひろえ)

富山県高志リハビリテーション病院	安田厚子	(やすだ　あつこ)
富山赤十字病院	佐野正登	(さの　まさと)
富山市民病院	林　茂	(はやし　しげる)
	坂井健二	(さかい　けんじ)
黒部市民病院	新井裕一	(あらい　ゆういち)
	廣畑美枝	(ひろはた　みえ)
市立砺波総合病院	坂下泰雄	(さかした　やすお)
新湊市民病院	荒川志朗	(あらかわ　しろう)
厚生連高岡病院	高堂松平	(たかどう　まつへい)
	小竹泰子	(おだけ　やすこ)
福井県立病院	宮地裕文	(みやじ　ひろふみ)
	吉田光宏	(よした　みつひろ)
福井県済生会病院	安川善博	(やすかわ　よしひろ)
市立敦賀病院	濱田敏夫	(はまだ　としお)
横浜栄共済病院	澤　弥生	(さわ　やよい)
	水口一郎	(みずぐち　いちろう)
国立身障者リハビリセンター病院	角田尚幸	(かくた　なおゆき)
東京都立老人医療センター	吉野正俊	(よしの　まさとし)
白十字会　燿光病院	井手芳彦	(いで　よしひこ)
Oxford大学	岩佐和夫	(いわさ　かずお)

編 集 後 記

この2年間、世間が2000年問題や新世紀に移行する喧噪の中にあるときに、私たちの医局はどこよりも激動に満ちた時期を経験したと思います。地域における神経内科の需要は高まる一方で入局者の増員が追いつかず極端な医局員不足が続き、更に現医局の礎を築き精神的支柱でもあった高守正治初代教授が停年退官となりました。そして、マンパワー不足から診療・研究・教育に医局員が消耗しきっていた2000年1月に山田正仁教授が赴任しました。その後1年余り、多くの問題がありましたが新教授を中心に何とか乗り切って現在にいたっております。本冊子はいわば金沢大学神経内科学教室のnadirの状態の記録です。2001年は多数の入局者を迎える予定であり、金沢大学附属病院の新病棟も開設され、当科の病床数も20床に拡大します。ようやく準備が整いつつある今、これまで以上の皆様の御支援・御協力をお願い申し上げます。

(医局長　沖 野 惣 一)

金沢大学医学部神経内科学講座
年　報

〒920-8641　金 沢 市 宝 町 1 3 － 1
TEL(076)265 － 2292　　FAX(076)234 － 4253
http://web.kanazawa-u.ac.jp/~med19/